

氏名	伊勢 真人
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6536 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Prevalence of Psychological Distress and Its Risk Factors in Patients with Primary Bone and Soft Tissue Tumors (骨軟部腫瘍患者における心理社会的苦痛の有病率と危険因子について)
論文審査委員	教授 山田了士 教授 平沢 晃 教授 田端雅弘

学位論文内容の要旨

最近、がん診療において、患者の心理社会的苦痛(distress)への介入も重点が置かれるようになってきているが、骨軟部腫瘍患者における distress スクリーニングに関する報告は少ない。

本研究の目的は、術前骨軟部腫瘍患者における、スクリーニング陽性率、危険因子を明らかにすることである。

当院で手術を行った骨軟部腫瘍患者 301 例を対象とした。入院時に、つらさと支障の寒暖計(DIT)を用いてスクリーニング評価を行い、年齢、性別、組織型腫瘍部位、安静時・動作時疼痛、Performance Status、術前化学療法・放射線療法、生活歴、配偶者・子供・同居人の有無を関連因子とし統計学的解析を行った。

スクリーニング陽性患者の割合は全体で 21%、悪性骨軟腫瘍で 32%、良性骨軟部腫瘍で 15%であった。単変量解析では年齢、性別、良悪性、安静時/動作時の疼痛(NRS)、Performance status に有意差を認めた。多変量解析では、年齢(高齢)、性別(女性)、組織型(悪性)、疼痛(動作時)が危険因子であった。

結論としてリスク因子を持つ患者は distress に注意し、身体症状による原因に対しては疼痛コントロールや手術による ADL 改善を図り、それ以外の原因の場合は、原因検索を行い多職種による介入、サポートが必要である。

論文審査結果の要旨

がん診療における精神心理的サポートの重要性は高く認知されるようになっており、気持ちのつらさと表現される心理状態の把握が重要である。しかし、骨軟部腫瘍の患者においてはそのようなスクリーニングに関する報告が少なく、本研究はこの点について、がん診療・緩和ケア領域でしばしば用いられるつらさと支障の寒暖計(DIT)によるスクリーニングを行い、気持ちのつらさ(psychological distress)の強い患者の陽性率やリスクの特徴を明らかにしようとしたものである。

その結果、入院時のスクリーニングにおいて、年齢が高いこと、女性、悪性腫瘍、動作時疼痛の強さがDITの高得点と関連しており、精神心理的介入の必要度の高い患者の特徴が示された。

委員からは、スクリーニングを行う時期についての問題や、今後の展開等、様々な質問があり、いずれも適切かつ真摯に回答を行った。

本研究は、骨軟部腫瘍治療における精神心理的介入の必要性を判断するための臨床特徴について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。